

2005年度 大学院法務研究科
法学既修者認定試験
刑事訴訟法
(問 題)

第1問

被告人は、夜間、普通乗用自動車を運転中、前方注視義務を怠り、漫然進行した過失により、道路を横断中の歩行者の発見が遅れ、自車前部を同人に衝突させて転倒させ、加療約3か月を要する傷害を負わせたという業務上過失傷害の訴因により起訴されたが、審理の結果、被害者は事故の約11時間後に死亡していることが判明した。

この場合に含まれる論点を指摘し、その論点について論ぜよ。

第2問

甲及び乙を共同被告人とする強盗致傷被告事件において、検察官が、目撃者Aの検察官に対する供述調書の取調べを請求したところ、甲の弁護人は同意したが、乙の弁護人は不同意との意見を述べた。検察官が、Aの検察官に対する供述調書の供述内容を証拠とするためにはどうすればよいか。